

自立活動学習指導案

LD等通級指導教室 1人(4年女子)

指導者 北川 政人

1 題材名 漢字の宝石箱

2 題材について

(1) 題材の価値

対象となる子どもは通常学級の第4学年に在籍し、本校のLD等通級指導教室で、自立活動と国語科、算数科の補充指導を週8時間受けている。在籍学級においては、特別支援教育支援員による学習支援も受けている。

日常生活においては、明るく活発で、友達や教師と会話をすることも大好きであるが、注意集中の持続が難しく、ワーキングメモリの弱さもあり、視覚的イメージの乏しい事柄を記憶することに困難さがある。そのために、漢字の読み、書きの習得や算数の計算に困難さが見られる。しかし、「みんなと同じようにできるようになりたい。」「本を読めるようになりたい。」「頑張って漢字を書くことができるようになりたい。」という願いを強くもっている。

対象となる子どもが困難さを示している、漢字の読み、書きに関しては、昨年度の自立活動「漢字を覚えよう」(全23時間)の中で指導を行ってきた。その中で、対象となる子どもの分かりやすさを踏まえて、漢字を視覚的にイメージしやすいものにし、漢字のコインを作って集めていく活動を通して、楽しみながら漢字を覚えることができるようにした。現在、漢字を読むことに関しては、第1学年の漢字80字と、第2学年の漢字20字程度は習得している。また、漢字を書くことに関しては、第1学年の漢字80字のうち、約半分の40字に関しては習得している。通級指導教室のワークシートの中でも積極的に学習した漢字を使おうとする姿が見られるなど、現在、漢字の読み、書きに対しての抵抗感は軽減されてきている。また、習得するスピードも早くなってきている。

そこで本題材では、対象となる子どもが漢字の読み、書きを学習することへの意欲が高まっている状況を踏まえて、「漢字を覚えよう」に続く題材として、「漢字の宝石箱」を設定し、第2学年までの漢字の読み、書きができるように、子どもの分かりやすさや楽しさに配慮しながら、もっている力を十分に活用できるようにしていきたい。

指導に当たっては、対象となる子どもが習得しやすいように、相互に意味付けしやすいと考えられる漢字同士や、へんやつくりなどの漢字を構成する部分から漢字の違いを意識できるような漢字同士を組み合わせて指導計画を作成する。また、学んだことを生かすことができるように、新たに学習する漢字の構成部分に、以前に出てきた漢字が入る場合には、学んだすぐ後にその漢字を学習できるようにする。さらに、対象となる子どもにとって、これまでも有効であった支援方法を使い、教師と一緒に、漢字を視覚的にイメージしやすい絵に置き換える活動を行う。また、対象となる子どもが漢字の形や構成部分に注意を向けることができるように、同じ漢字の形を探したり、漢字の足りない部分を補ったりする活動を取り入れて、漢字を分かりやすく習得できるようにする。また、作成した教材を持ち帰って、学習した漢字の読みを保護者に伝えたり、学習した漢字を家庭でも書いたりする活動を行うことで、定着を図り、日常生活においても使うことができるようにしていきたい。

このような学習を通して、対象となる子どもが習得しやすい方法を実感し、これからの漢字の学習の際には、その方法を子ども自身で活用することができるようにしていきたいと考える。

(2) 題材の目標

- 第2学年の漢字160字を教師と一緒に絵にして、それを手掛かりに読むことができる。
- 漢字の形や漢字を構成する部分に注目し、書き順を意識しながら漢字を書くことができる。

【習得を目指す漢字】

【相互に意味付けしやすい漢字の組み合わせ】

心思黄 弓矢引 強弱同 刀切食 父母親 鳥鳴羽 明星光 楽友家 頭長毛 朝昼夜
内肉店 売買市 外多少 作体当 丸角台 古新直 京帰汽 顔形知
東西北南 才自色用 社会理科 戸声半分 広野原風 馬首何回 活船工画 兄弟姉妹
春夏秋冬 数答歌交 方万合谷 寺茶麦番 岩場魚太 高行教晴 考元公室 前後今時

【へんやつくりなどの漢字を構成する部分から漢字の違いを意識できる漢字の組み合わせ】

園国凶 雲雪電 門間聞 言計算 海池地 曜週毎 細線組 紙絵書 止歩走 里黒点
記話読語 牛午米来 遠近通道

(3) 子どもの実態

対象となる子どもの支援のために必要な実態調査として WISC-Ⅲ 知能検査と K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリーを行い、行動観察と関連付けて認知情報処理特性を明らかにし、指導計画を作成する際に生かすことができるようにした。また、自立活動の学習内容要素からの実態も把握し、学習内容を設定した。

<p style="text-align: center;">WISC-Ⅲ 知能検査から</p> <ul style="list-style-type: none"> 全検査 IQ では知的発達境界線上であり、大きな遅れはないと考えられる。 言語性 IQ が動作性 IQ に比べて低く、認知の偏りが強い。 群指数では、「知覚統合」「言語理解」は強いが、「注意記憶」「処理速度」は弱い。 言語性検査の「単語」が強く、動作性検査の「符号」は弱い。 	<p style="text-align: center;">K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリーから</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知処理尺度では、著しい遅れはないものの、「同時処理尺度」に比べて「継次処理尺度」が低く、認知の偏りが強い。 認知処理尺度に比べると習得度尺度が低く、もっている力をうまく使って学習できていないと考えられる。 継次処理では「語の配列」が弱く、同時処理では「視覚類推」が強い。
<p style="text-align: center;">行動観察と検査から考察する 子どもの認知の特性について</p> <p>注意を持続させて、聴覚的な情報を正確に取り込み、記憶することが苦手である。覚える事柄を意味付けすると覚えやすくなると考えられる。</p> <p>視覚的情報を統合し、構成することは得意であるため、図や絵などを補助的手段として用いると、定着を図ることができると考えられる。</p> <p>処理スピードがゆっくりなので、時間を十分に確保する配慮が必要である。</p>	<p style="text-align: center;">行動観察と検査から考察する 子どもの認知の特性について</p> <p>継次処理より同時処理が得意なところから、対象となる子どもは順序に従って処理することが難しいために、系列的な学習の習得に困難をきたすことが考えられる。算数の繰り上がりや、単語や綴りの書字、話し言葉の処理などに困難さがあると考えられる。また、同時処理が得意なことから、問題を視覚的に提示し、図や絵によって意味付けすると理解しやすくなると考えられる。</p>
<p>環境の把握（感覚や認知の特性への対応に関すること）</p>	
<p>複数の掲示物から目的の教材に注意を向けることが難しいことがある。 図示された教材のどこに注目してよいか分からないことがある。 5分間以上、話を聞くことが難しい。 直前に聴いた音や言葉を一時的に覚えていることが難しい。</p>	
<p>人間関係の形成（自己の理解と行動の調整に関すること）</p>	
<p>「できないから、難しいから。」と言って、学習活動を渋ることがある。</p>	
<p>身体の動き（日常生活に必要な基本動作に関すること）</p>	
<p>枠からはみ出したり、形が大きく崩れるなど、書字の難しさがある。 書き写す活動の際に、目と手の協応動作がぎこちない。</p>	

3 指導に当たって（研究との関連）

【「思考活動」を促す学習指導】

- 「つかむ・見通す」過程（思考場面 1）では、三つの漢字カードを提示し、三つの漢字はどこが違うか、また、これまで学習した漢字が入っているかを漢字カードを使って考えることができるようにすることで、本時で学習する「細」、「線」、「組」の漢字への意識を高めることができるようにする。その際、子どもが漢字の構成部分に気付きにくい場合には、糸偏の部分を隠したり、これまで習った漢字の部分だけを見せたり、色分けしたりする。
- 「活動する」過程（思考場面 2）では、漢字を構成する部分への意識を高めて、正しい書き順で漢字を書くことができるようにするために、以下の手立てを行う。
 - 漢字カードと絵を使い、教師と一緒に漢字をイメージしやすい絵にすることで、漢字を覚えやすくする。
 - 漢字カード10個の中から本時で学習する漢字を探したり、ワークシートの中でも、漢字を探したりすることで、漢字の形に着目することができるようにする。
 - I C T機器を活用して、自分自身で書き順の表示スピードを調節しながら指で何回もなぞり書きができるようにすることで、自分のペースで漢字の書き順を覚えることができるようにする。
 - 足りない部分がある漢字のワークシートを活用し、漢字の足りない部分を補う練習をすることで、漢字の構成部分を意識することができるようにする。
 - 本時で学習した漢字の入った文章を自分で考えるようにすることで、覚えた漢字を活用することができるようにする。
- 「振り返る」過程（思考場面 3）では、本時で子どもが作った教材を活用し、本時で覚えた漢字を友達や保護者に伝えることができるように、教師と役割演技をすることで、日常生活でも学習した漢字を使っていく意識を高めることができるようにする。

5 本 時 (26/52)

- (1) 目 標 ○ 「細」, 「線」, 「組」の漢字を教師と一緒に絵にして, それを手掛かりに読むことができる。
 ○ 「細」, 「線」, 「組」の形や, 漢字を構成する部分に注目し, 書き順を意識しながら書くことができる。

※「思考場面」における「思考活動」とその「材料」及び「視点」については評価資料に明記

(2) 展 開

☆はICT活用上の留意点

過程(分)	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
つかむ・見通す (15)	1 はじまりのあいさつをする。 2 家庭で取り組んだ宿題を教師が確認する。 3 前時までに学習した漢字について, ICTで振り返る。 4 本時の活動を知る。 5 本時のめあてを確認する。 「細」, 「線」, 「組」のほう石かん字を手に入れよう。 (1) めあてを言葉に出して読む。 (2) めあてをワークシートに書く。 (3) 活動を確認する。	○ 家庭学習で丁寧に書くことができていたところなどを取り上げて称賛することで, 本時の学習への意欲を高めることができるようにする。 ○ 三つの漢字の違いに着目することで, 漢字の構成部分に気を付けることができるようにする。(比較) ○ 子どもと一緒に, 漢字を視覚的にイメージしやすい絵と関連付けて意味付けすることで, 漢字を覚えることができるようにする。(想起) 【同時処理が得意な子どもに有効な支援として】 ○ 筆の運びを支援するために, なぞり線の1画目を赤, 2画目を青, 3画目を緑色で表示されたワークシートを使うことで, 正しい書き順で漢字を書くことができるようにする。
活動する (25)	6 宝石ハンターざくざく作戦で宝石を手に入れる。 【宝石ハンターざくざく作戦】 ① よく見てみよう。 ② えにしよう。 ③ 同じかん字をさがそう。 ④ よんでみよう。 ⑤ かきじゅんをおぼえよう。 ⑥ 足りないところをかいてみよう。 ⑦ 文をかこう。 ⑧ れんしゅうしよう。 ⑨ ほう石かん字をつくろう。 ⑩ ほう石かん字をはっぴょうしよう。	【注意集中が持続しにくい子どもへの支援として】 ○ テンポよく, 短い時間で次の活動に移ることができるように, 活動する量と時間を調節することで, 注意集中が持続できるようにする。また, パソコンを自分で操作したり, 指を使って漢字の書き順をなぞったり, 漢字の宝石を作ったりするような, 体を動かす活動を多く取り入れることで, 注意集中が持続できるようにする。 ○ 資料や手順はできるだけ精選して提示し, 大切な部分は色分けするなどして強調することで, 大切なことを意識することができるようにする。
振り返る (5)	7 本時の活動を振り返る。 ・ 書くことができたようになった漢字について, 友達や保護者に説明することを想定して発表する。 8 今日の家庭学習「宝石かん字ワーク」の確認をする。	【手と目の協応作業に困難さがある子どもへの支援として】 ○ ワークシートの書く枠は大きくし, 漢字の手本になるものや, 書くための手掛かりとなるものは, 机上において確認できるようにする。また, 書き順を学習する際にはICTを活用し, 自分で画面を書き順通りになぞりながら, 指先を使って, よく見て, 正しく形を認識できるようにする。 ☆ 書き順を覚える際は, ICTを使って子どもが自分で書き順のスピードを調節しながら指で画面を何回もなぞり書きすることで, 正しい書き順を覚えることができるようにする。 ○ 本時で書くことができたようになった漢字の家庭学習用の課題を準備し, 保護者へも確認してもらうことで, 子どもが自分から進んで保護者にできるようになったことを伝えたり, 日常生活の中でも漢字を使ったりすることができるようにする。

自立活動「漢字の宝石箱」(26/52)					
個人目標	<p>「細」,「線」,「組」の漢字を教師と一緒に絵にして,それを手掛かりに読むことができる。</p> <p>「細」,「線」,「組」の形や,漢字を構成する部分に注目し,書き順を意識しながら書くことができる。</p>				
評価項目					
<p>○ 漢字の「細」,「線」,「組」のそれぞれの形の違いについて,気付いたところを発表することができたか。</p> <p>○ 漢字を構成する部分への意識を高めて,正しい書き順で漢字を書くことができたか。</p> <p>○ 本時で学習した漢字を,友達や保護者に伝える練習をすることで,今日の学習を振り返ることができたか。</p>					
過程	個人目標を達成するための手立て ■:材料 <>:視点				
つかむ・見通す	思考場面1〈漢字を構成する部分に着目できるように〉				
	<p>本時で学習する「細」,「線」,「組」の漢字を提示し,三つの漢字はどこが違うか,また,これまで学習した漢字が入っているかを確認する。三つの漢字のカード</p> <p>【発問】「この三つの漢字はどこが違うか,よく見てみよう。」</p> <p>「同じところと違うところがあるね。これまでに学習した漢字が入っているかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが漢字の構成部分に気付きにくい場合には,糸偏の部分を隠したり,これまで習った漢字の部分だけを見せたり,色分けしたりする。 				
手立て					
活動する	思考場面2〈漢字の構成部分と書き順に気を付けて書くことができるように〉				
	① 漢字を覚えやすくなるために教師と一緒に漢字をイメージしやすい絵にする。 漢字カードと絵	② 漢字の形に着目するために,10個の漢字の中から今日の漢字を探す。 漢字カード 漢字を選ぶワークシート	③ ICTを活用して,自分自身でスピードを調節しながら書き順を覚える。 書き順の分かるデジタルコンテンツ	④ 漢字の構成部分を意識できるように,漢字の足りない部分を補う練習をする。 足りない部分がある漢字のワークシート	⑤ 本時で学習した漢字の入った文章を自分で考える。 漢字カードと絵
	「これは,どんな絵になるかな。」	「同じ漢字を見つけよう。」	「書き順を覚えることができたときには教えてね。」	「足りない部分を書き順に気を付けて書こう。」	「今日学習した漢字が入った文章を考えよう。」
手立て					
振り返る	思考場面3〈本時で覚えた漢字を,日常生活の中でも使うことができるように〉				
	<p>本時で覚えた漢字を,友達や保護者に伝えることができるように,自作した宝石漢字を使いながら,教師と役割演技をする。本時で作った宝石漢字</p> <p>【発問】「今日は何という漢字を作ったの。教えて。」</p>				
手立て					
評価					
次の目標					